

特殊相対性理論 (Special Relativity) は次の 2 つの事柄を原理とする。

特殊相対性原理

あらゆる慣性系で同じ物理法則が成り立つ。

光速不変の原理

あらゆる慣性系で真空中の光の速さは同一である。

この原理の下で成り立つ座標変換の法則 (Lorentz 変換) を導く。まず、慣性系  $X$  系の原点  $O$  と  $X'$  系の原点  $O'$  が  $t = t' = 0$  で一致している。  $t = t' = 0$  で光が原点 ( $O = O'$ ) を通過したとする。  $X$  系の空間座標を  $(x, y, z)$ ,  $X'$  系の空間座標を  $(x', y', z')$  とすると、光速不変の原理より、

$$\frac{\sqrt{x^2 + y^2 + z^2}}{t} = \frac{\sqrt{x'^2 + y'^2 + z'^2}}{t'} = c \quad (0.0.1)$$

が成り立つ。上式から**世界長さ** (spacetime interval)

$$s^2 = x^2 + y^2 + z^2 - (ct)^2 \quad (0.0.2)$$

が不変量であることが導かれる。

慣性系  $X'$  が  $x$  軸正の方向に速さ  $v$  で移動している.. このとき  $y = y', z = z'$  である。わかりやすいように  $T = it$  とおく。光速不変より、

$$x^2 - (ct)^2 = x'^2 - (ct')^2 \quad (0.0.3)$$

$$x^2 + (cT)^2 = x'^2 + (cT')^2 \quad (0.0.4)$$

が成り立つ。これが回転座標変換と類似していることから、

$$\begin{pmatrix} cT' \\ x' \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} cT \\ x \end{pmatrix} \quad (0.0.5)$$

と置く。表示を  $t$  に戻すと

$$\begin{pmatrix} ct' \\ x' \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos \theta & i \sin \theta \\ i \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} ct \\ x \end{pmatrix} \quad (0.0.6)$$

である。さらに、 $\theta = i\phi$  とすると

$$\begin{pmatrix} ct' \\ x' \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cosh \phi & -\sinh \phi \\ -\sinh \phi & \cosh \phi \end{pmatrix} \begin{pmatrix} ct \\ x \end{pmatrix} \quad (0.0.7)$$

となる。よって、

$$x' = (-\sinh \phi)ct + (\cosh \phi)x \quad (0.0.8)$$

を得る。  $X$  系において時刻  $t$  が経過したとする。  $X$  系から見るお  $X'$  系の原点の位置は  $x = vt$  である。一方、  $X'$  系から見ると  $x' = 0$  である。 よって上式から

$$0 = (-\sinh \phi)ct + (\cosh \phi)vt \quad (0.0.9)$$

が成り立つ。 よって、これを变形すると

$$\frac{v}{c} = \frac{\sinh \phi}{\cosh \phi} = \tanh \phi \quad (0.0.10)$$

である。以上より、

$$\begin{cases} \sinh \phi = \frac{v/c}{\sqrt{1 - (v/c)^2}} \\ \cosh \phi = \frac{1}{\sqrt{1 - (v/c)^2}} \end{cases} \quad (0.0.11)$$

であることがわかる。したがって、

Lorentz 変換

$$\begin{pmatrix} ct' \\ x' \end{pmatrix} = \frac{1}{\sqrt{1 - (v/c)^2}} \begin{pmatrix} 1 & -v/c \\ -v/c & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} ct \\ x \end{pmatrix} \quad (0.0.12)$$

を得る。Lorentz 変換

$$x' = \frac{x - vt}{\sqrt{1 - (v/c)^2}} \quad (0.0.13)$$

において  $v \ll c$  とすると

$$x' = x - vt \quad (0.0.14)$$

となる。これは Galilei 変換と一致している。

次に、相対論的効果を取り込んだ速度の合成則について示す。状況は、 $X$  系は静止し、 $X'$  系が速さ  $v$  で  $x$  軸方向に移動しているとする。さらに  $X'$  系では粒子が速さ  $u'$  で  $x'$  軸方向に運動している。 $X$  系から見た粒子の速度  $V$  を求める。式 (0.0.12) において  $v \rightarrow -v$  とすると

$$\begin{pmatrix} c dt' \\ dx' \end{pmatrix} = \frac{1}{\sqrt{1 - (v/c)^2}} \begin{pmatrix} 1 & v/c \\ v/c & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} c dt \\ dx \end{pmatrix} \quad (0.0.15)$$

となる。 $V = \frac{dx}{dt}$  なので

$$V = \frac{dx}{dt} = \frac{v dt' + dx'}{dt' + (v/c^2) dx'} \quad (0.0.16)$$

$$= \frac{v + \frac{dx'}{dt'}}{1 + (v/c^2) \frac{dx'}{dt'}} \quad (0.0.17)$$

$$= \frac{v + u'}{1 + \frac{vu'}{c^2}} \quad (0.0.18)$$

を得る。

速度の合成

$$V = \frac{v + u'}{1 + \frac{vu'}{c^2}} \quad (0.0.19)$$

例として  $u' = v = c$  とすると

$$V = \frac{2c}{1 + c^2/c^2} = c \quad (0.0.20)$$

である。速度が合成されても光速を超えることは決してないことがわかる。

**Lorentz 収縮**について説明する。速さ  $v$  で運動している  $X'$  系から、 $t' = 0$  において、静止している  $X$  系の2点を見る。1点 は原点  $O : (x, t) = (0, 0)$  もう1点 は  $P : (x, t) = (L, t)$  とする。まず、原点  $O$  は  $X'$  系から見ると

$$\begin{pmatrix} ct' \\ x' \end{pmatrix} = \frac{1}{\sqrt{1 - (v/c)^2}} \begin{pmatrix} 1 & -v/c \\ -v/c & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix} \quad (0.0.21)$$

である。点  $P$  を  $X'$  系から見ると、

$$\begin{pmatrix} ct' \\ x' \end{pmatrix} = \frac{1}{\sqrt{1 - (v/c)^2}} \begin{pmatrix} 1 & -v/c \\ -v/c & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} ct \\ L \end{pmatrix} = \frac{1}{\sqrt{1 - (v/c)^2}} \begin{pmatrix} ct - \frac{v}{c}L \\ -vt + L \end{pmatrix} \quad (0.0.22)$$

である。 $t' = 0$  で観測しているため、 $t' = 0$  を代入し

$$0 = ct - \frac{v}{c}L \quad (0.0.23)$$

$$t = \frac{v}{c^2} L \quad (0.0.24)$$

を得る。よって、

$$x' = \frac{1}{\sqrt{1-(v/c)^2}} \left( -\left(\frac{v}{c}\right)^2 L + L \right) = \sqrt{1-\left(\frac{v}{c}\right)^2} L \quad (0.0.25)$$

である。これは動いている慣性系から静止系での距離 ( $L$ ) を測る ( $L'$ ) と縮んで見えることを意味している。

Lorentz 収縮

$$L' = \sqrt{1-\left(\frac{v}{c}\right)^2} L \quad (0.0.26)$$

また、その対象に対して静止している観測者が測った距離を**固有長さ** (proper length) という。今回は  $L$  が固有長さである。

次に**時間の遅れ**について説明する。同様の  $X$  系と  $X'$  系を考える。時計が  $X'$  系の原点  $x' = 0$  に置かれており、観測者は  $X'$  系においてこの時計を見ている。 $X'$  系に置かれた時計の時刻が  $t'$  のときの時空点  $P_1$ ,  $t' + \Delta T_0$  の時空点を  $P_2$  とする。 $P_1$  は、

$$\begin{pmatrix} ct_1 \\ x_1 \end{pmatrix} = \frac{1}{\sqrt{1-(v/c)^2}} \begin{pmatrix} 1 & v/c \\ v/c & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} ct' \\ 0 \end{pmatrix} = \frac{1}{\sqrt{1-(v/c)^2}} \begin{pmatrix} ct' \\ vt' \end{pmatrix} \quad (0.0.27)$$

$P_2$  は、

$$\begin{pmatrix} ct_1 \\ x_1 \end{pmatrix} = \frac{1}{\sqrt{1-(v/c)^2}} \begin{pmatrix} 1 & v/c \\ v/c & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} c(t' + \Delta T_0) \\ 0 \end{pmatrix} = \frac{1}{\sqrt{1-(v/c)^2}} \begin{pmatrix} c(t' + \Delta T_0) \\ v(t' + \Delta T_0) \end{pmatrix} \quad (0.0.28)$$

である。よって、 $X$  系での時間経過  $\Delta T = t_2 - t_1$  は、

$$\Delta T = t_2 - t_1 = \frac{1}{\sqrt{1-(v/c)^2}} \Delta T_0 \quad (0.0.29)$$

である。これは  $X'$  系は  $X$  系に比べて時間の流れが遅いことを示している。

時間の遅れ

$$\Delta T = \frac{1}{\sqrt{1-(v/c)^2}} \Delta \tau \quad (0.0.30)$$

観測者に対して2つの事象が同一の空間座標で起きたとき、その時間間隔  $\Delta \tau$  を**固有時間** (proper time) という。